三重県名張市の旧町における戦前の商店について

田中　和幸*、南出博豊**

On the Stores before World WarⅡof Old Town in Nabari City, Mie Prefecture

Kazuyuki TANAKA*, Hiroto MINAMIDE**

Nabari City is in the Midwest part of the Mie Prefecture. It has a prosperous post town since ancient times, along the Hase Kaido road. Nabari city since the beginning of modern times, many people and goods were distributed by the development of transportation. Even after world warⅡ, residential land development was actively carried out and the population continued to increase, but in recent years the population of Nabari City has been decreasing. As a result, vacant houses have increased in Nabari City, and many stores along the Hase Kaido road losing the bustle of the past.

In this paper, focusing on the old town of Nabari City, we investigated the stores using the telephone directory in Mie prefecture, which is owned by the author, in addition to the personal and credit records issued from Meiji to the early Showa era. As a result, it was found that Honmachi town and Shinmachi town were the main streets that have continued since the Edo era, but the characteristics of both towns as seen from the store are different.

Keywords: Nabari city, Old Town, Before World WarⅡ, Store

1．はじめに

近畿大学工業高等専門学校のある名張市は、三重県中西部に位置し、県内の行政地域[1]の一つである伊賀に分類される。江戸時代の名張は藤堂家の藩領[2]で、上野と阿呆（あお）とともに伊賀の地で許された商業地であった（図 1）。

また、名張は大和と伊勢を結ぶ初瀬街道が通り、古くから伊勢参りの宿場とし栄えてきたこととしても知られている。近代に入ってからは鉄道の開通によって、商業地の名張へ人とモノが集まり、さらには赤目滝や香落渓へ訪れる観光客が増加したことで町が活性化した。

戦後は昭和 30 年代から大阪のベットタウンとして宅地開発が始まり、名張市の人口は増加し平成 12（2000）年には最高の 83,291 人を記録した。ところが、この翌年から名張市の人口は減少を続け、平成 30（2018）年 10 月現在で 77,040 人となっている[3]。

*近畿大学工業高等専門学校
総合システム工学科都市環境コース（建築系）
**近畿大学工業高等専門学校
生産システム工学専攻土木工学

その結果、宅地開発された地域では、住民が高齢化したことで交通の便が良い地域に住み替える傾向が進み、わが国の社会問題の一つに挙げられる空き家の増加が目に付

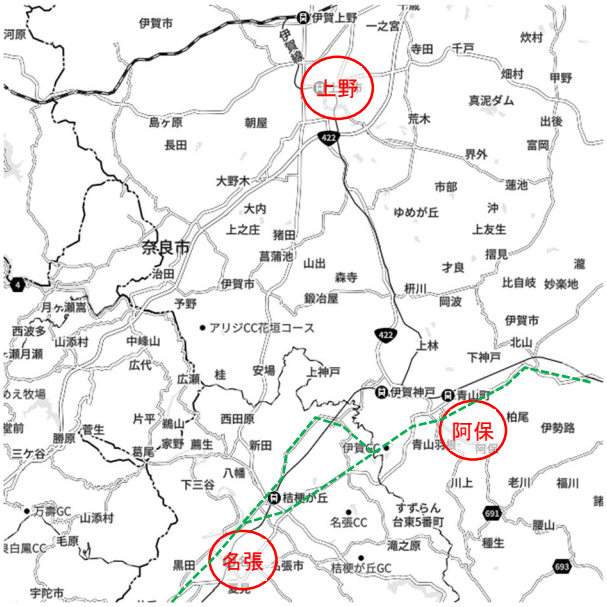

図１　三重県伊賀における上野と名張、阿呆の位置図
※――は初瀬街道を示す　　Yahoo 地図に筆者加筆

くようになった（写真 1）。

名張市における人口の減少は、初瀬街道が通る市内の中心部でも進んでいる。商売を続けてきた住民は高齢化したことによって廃業し、老朽化が進んでいる建物は、使い勝手が悪いこともあり、所有者が手放すと時を待たずして解体され街並みは歯抜け状態となり景観の破壊が進んでいく。その結果、多くの人々が行き交った光景は過去のものとなり、かつての賑わいは失われてしまった（写真 2）。

写真 1　宅地開発された地域で増加している空き家住宅

写真 2　町家が解体され歯抜け状態となり景観の破壊が進む旧町

このような状況が広がっている名張市中心部の旧町には、古写真などから多くの商店が集まっていた（図 2）ことをうかがい知ることができ『名張市史』[4]には明治 26（1893）年の『三重県下商工人名録』[5]に掲載されていた商店を紹介している。ただ、著者の中貞夫氏は「当時の有名商店全部を網羅しているわけではない」[6]と記していることからも、その他の商店があったことは否めない。また、その後の商店についても詳しいことは触れられておらず、名張市旧町における戦前の商店については全容が把握されているとはいい難い。

以上のことを踏まえ、本稿では、明治から昭和初期に発行された商工人名録や信用録を用いて、名張市旧町にあった商店を再確認する。さらに、これまで多くの人の目に触れることのなかった昭和 6（1931）年発行の『三重県下普通電話番号簿』[7]（図 3）を用いて名張市旧町を網羅的に把握することで、商店と各町の関係性を明らかにしようとするものである。

図 2　絵葉書に印刷された賑わる本町の様子

図 3　昭和 6 年発行の『三重県下普通電話番号簿』

2．旧名賀郡名張町について

2．1　旧名張町における町名の変遷

名張市旧町の前身が簗瀬村に始まることは周知の通りである。明治 8（1875）年に簗瀬村と周辺の北出村、南出村、平尾村が合併し簗瀬村となり、明治 13（1880）年に名張村と改称され、明治 22（1889）年に町政が実施され名張町となった。

その後、周辺の村を合併しながら昭和 29（1954）年に名張市が誕生し、昭和 32（1957）年に名賀郡の古山村と神戸村の一部を合併し、現在の名張市に至っている[8]。

旧名張町では、地籍を示す字名と江戸時代から受け継いだ町名の両方が長いあいだ併用されていた。

まず、地籍には奥開（おくびらき）、中開（なかびらき）、越前（こしまえ）、久保門（くぼかど）、藤ノ木（ふじのき）、前山（まえやま）、北平尾（きたひらお）、峡間（さざま）、岡入（おかいり）、久保（くぼ）、柳原（やなぎはら）、並松（なんまつ）、広垣内（ひろかいと）、行瀬（ぎょうせ）、北

表 1　旧名張町における町名の変遷

地籍＼年代	M8		M14	T13	S7	S16	S18	S29	S35～
越前 北平尾 久保 岡入 峡間	簗瀬村			二本松町	→	→	→	栄町	栄町
北平尾 藤ノ木 岡入		**峡間**	→	→	→	→	丸之内	→	丸之内
越前 久保 瓜原 追分			八町	下八町	→	→	→	東町	東町
八町 久保 北ノ前				上八町	→	→	→	→	上八町
岡入		**松崎町**	→	→	→	→	→	→	松崎町
並松 広垣内 行瀬				豊後町	→	→	→	→	豊後町
広垣内				木屋町	→	→	→	→	木屋町
岡入		**榊町**	→	→	→	→	→	→	榊町
並松 広垣内		**瀬古手町**	→	→	元町	→	→	→	元町
		下横町	→	→	→	中町	→	→	中町
柳原		**上横町**	→	→	→	→	→	上本町	上本町
		柳原町	→	→	→	→	→	→	柳原町
		鍛治町	→	→	→	→	→	→	鍛治町
広垣内 並松		**本町**	→	→	→	→	→	→	本町
		新町	→	→	→	→	→	→	新町
久保 北ノ前 行瀬	北出村		→	→	*北出*	→	→	朝日町	朝日町
山出 大谷	南出村		→	→	*南出*	→	→	南町	南町
			→	→	*大谷*	→	→	→	大谷
奥開 中開 越前 久保門 藤ノ木 北平尾	平尾村		→	→	*平尾*	→	→	→	平尾
前山			→	→	*平尾山*	→	→	→	桜ケ丘

「M8」のゴシック体は江戸時代からの町名を受け継いだ十町を示す。「S7」の斜体は地図に示された地名のため、昭和 7 年より前から使用されていた可能性がある。グレーで示した箇所は名張市の旧町を示す。

ノ前（きたのまえ）、瓜原（うりはら）、追分（おいわけ）、八町（はっちょう）、山出（やまで）、大谷（おおたに）の二十字があった。

また、町名には狭間（はさま）、柳原（やなぎはら）、鍛冶町（かじまち）、本町（ほんまち）、上横町（かみよこまち）、下横町（しもよこまち）、新町（しんまち）、瀬古手町（せこでまち）、榊町（さかきまち）、松崎町（まつざきちょう）の十町があった。これらの町名は、名張市旧町が発展してくなかで名称の変更や新設が行われ、昭和35（1960）年の「桜ケ丘」への変更を最後に現在へ至っており、それらの変遷を一覧に示した（表1）。

なお、本稿で示す名張市の旧町とは、明治8年に合併する前の築瀬村であった範囲とし、現在の栄町、丸之内、東町、上八町、松崎町、豊後町、木屋町、榊町、元町、中町、上本町、柳原町、鍛冶町、本町、新町とした。

２．２　旧名張町における交通機関の変遷

現在の名張市には近畿日本鉄道大阪線が通り、県内には赤目口、名張、桔梗が丘、美旗の4駅があるものの、この路線の開通は昭和5（1930）年まで待たなくてはならなかった[9]。それ以前の旧名張町には、既に廃線となっている伊賀上野駅からの終着駅があったが、現在ではその面影が完全に失われてしまっている。

このことから、まずは鉄道が敷設された変遷について概要を記す。伊賀へ最初に鉄道が敷かれたのは、関西鉄道の支線として明治30（1897）年1月15日に柘植駅から上野駅（現在の伊賀上野駅）の開通である。その後、明治30年11月11日に上野駅から加茂駅が延長し、明治32（1899）年には名古屋から上野駅を通り奈良までが繋がった。さらに、明治33（1900）年には大阪の湊町駅とが繋がり、新たな交通網が形成された。

関西鉄道の開通で、旧阿山郡上野町には多くの人々が集まり、様々なモノが行き交うことで、江戸時代から続いた伊賀の商業圏として繁栄を続けた。その一方で、鉄道の開業が出遅れた名張は衰退した。そこで、地元の政財界人によって、先に開通していた伊賀軌道の上野町駅（現在の上野市駅）を延長させることに尽力し、大正11（1922）年に名張駅まで開業した。

この名張駅は名張市旧町の木屋町に終着駅が造られ、名張が発展するきっかけとなった。名張がさらなる大きな変化を遂げるきっかけを造ったのが、参宮急行電鉄の開通である。昭和5年に奈良県の榛原駅から名張駅を経由し、参宮中川駅（現在の伊勢中川駅）まで延長され、大阪から名古屋、伊勢が鉄道で結ばれた。このとき、大正11年に開業した名張駅は西名張駅と改称し、昭和5年に開業した参宮急行電鉄の途中駅が、名張駅となり現在へ至っている。

このような鉄道の開通に加え、昭和30年代から始まっ

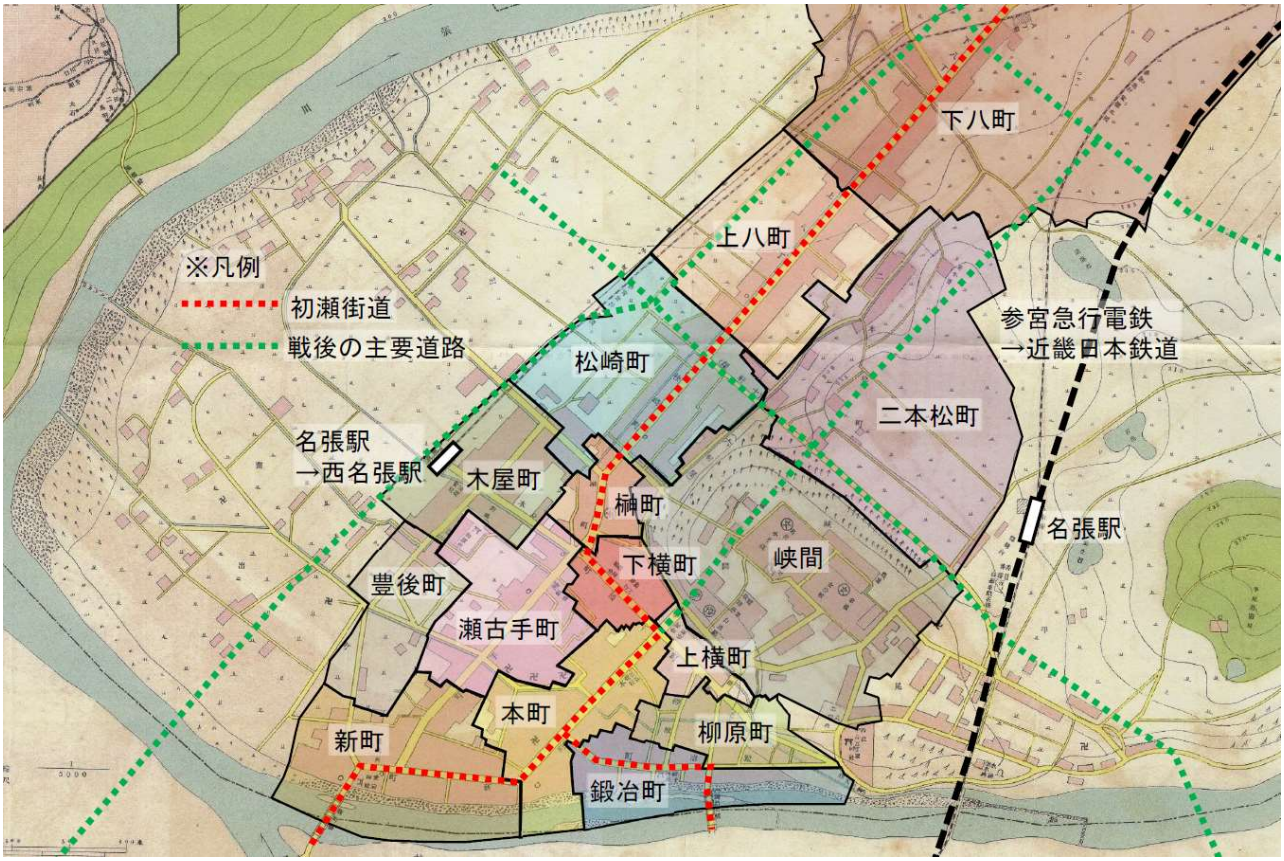

図5　昭和6年発行の地図に示した旧町と主な道路の位置　　国立国会図書館所蔵の「名張町地圖」に筆者加筆

た宅地開発に伴う人口増加とモータリゼーションによって、名張市では都市計画が進められ新たな道路網が整備されて行った。

そこで、名張駅と西名張駅の両駅がある昭和初期の旧名張町を描いた昭和 6 年発行の「名張町地圖」[10]に、当時は存在していなかった新たな主要道路に加え、現在の町名ごとの境界を図示した（図 5）。

３．昭和 6 年発行『三重県下普通電話番号簿』

３．１　三重県における電話交換事業について

わが国における電話交換事業は、明治 23（1890）年の東京横浜間で始まった。三重県での電話事業は、それから 10 年後の明治 33 年に名古屋電話交換局の支局として桑名と四日市におかれたのが最初であった。その後、明治 35（1902）年に加入者が引き込み線と宅内装置を負担する特設電話の制度ができると急速に電話事業が広まったと記されている[11]。

特設電話については、昭和 3（1928）年から昭和 7（1932）年の『三重県特設電話番号簿』の存在が確認されている。ただ、三重県における普通電話番号簿の存在については、これまで確認されていないなか、筆者は昭和 6 年発行の『三重県下普通電話番号簿』を古書店で入手した（図 6）。

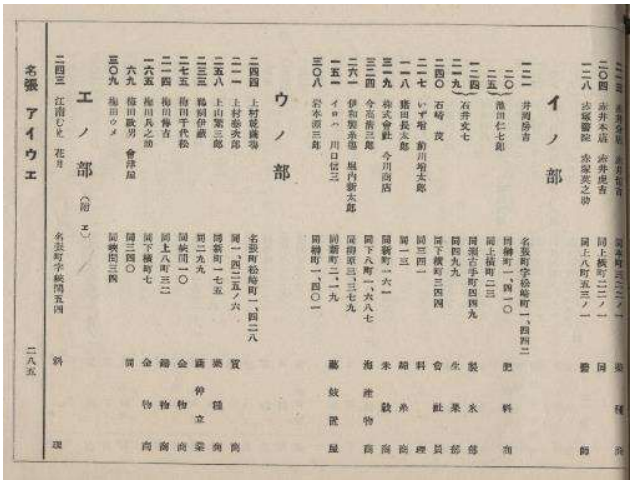

図 6　昭和 6 年発行の『三重県下普通電話番号簿』

『三重県下普通電話番号簿』は、津、四日市、桑名、山田、松坂、上野、富田、亀山、名張、鳥羽、尾鷲の順に加入者名が列記されている。そして、名張における「電話加入區域」のうち「普通加入區域」は「名張郡名張町（特別加入區域内ノ地ヲ除ク）、蔵持村大字大屋戸字上出同久保、箕曲村大字夏見字坊垣、同下川原、同浅尾、同下出大字瀬古口字藤ノ木、同挟間、同芝添、同丁ノ坪、同黒石、同西大字中村字廣保、錦生村大字黒田字尻江、同下川原、同高柳、同溜リ、同廣瀬、同酒屋門、同堂ヶ谷」と記されており、『三重県下普通電話番号簿』は名張市の旧町を対象としていることが分かる。

続いて電話に加入者していた対象者について述べる。『三重県史通史編近現代 1』によれば、明治後期の電話の加入者について「その多くは官公署や学校のほか、銀行・病院及び医師・旅館・料理屋及び飲食店・米穀及び肥料商・各製造業などの職業人であり、一般の勧誘者は限られていた」[12]と記している。推測の域はでないものの、時代背景を踏まえれば、昭和に入ってからの旧名張町においても電話の設置は一般家庭よりも商店や会社などが主であったと考えられる。換言すれば『三重県下普通電話番号簿』に記載されている氏名は、店舗の規模や創業年の違いを問わず旧名張町全域の商店を網羅している可能性が高いと考えられる。

３．２　旧名張町の電話事業について

旧名張町で電話交換事業が開始されたのは明治 45（1912）年で、その時の加入機数は 36 件であった。その後、5 年毎の加入状況が『名張市史』に記されており、大正 5（1916）年が 40 件、大正 10（1921）年が 83 件、大正 15（1926）年が 174 件、昭和 5（1930）年が 266 件、昭和 10（1935）年が 293 件、昭和 15（1940）年には 304 件となっていた。

『三重県下普通電話番号簿』に記載されている電話番号を確認したところ、旧名張町の電話加入者数は 263 件であり、前述した昭和 5 年の件数と近似であることから、この電話番号簿には旧名張町の電話加入者が網羅されているものと言える。以下、記載されている内容を一覧に示す（表 2）。なお、掲載は 50 音順の縦書きで、内容は上段から、電話番号、加入者名、所在地、業種となっていた。

表 2　『三重県下普通電話番号簿』の名張の一覧

番号	氏名	町名	番地	業種
42	名張郵便局／公衆電話兼事務用	榊町		
350	一般事務用	榊町		
49	加入者託送電報送受用	榊町		
500	電話交換受付用	榊町		
60	障碍試験用	榊町		
136	局長住宅用	榊町		
333	青山利吉	松崎町	1428	飲食業
213	赤井分店／赤井留吉	本町	322-1	薬種商
204	赤井本店／赤井虎吉	上横町	22-1	薬種商
128	赤塚医院／赤塚英之助	上八町	53-1	医師
121	井岡房吉	松崎町	1442	
20	池田仁七郎	榊町	1410	肥料商
25	池田仁七郎	上横町	23	
124	石井文七	瀬古手町	449	製氷部
219	石井文七	瀬古手町	499	生果部
240	石崎茂	下横町	344	会社員
217	いず増／前川増太郎	下横町	341	料理
118	猪田長太郎	下横町	13	綿糸商
319	株式會社今川商店	新町	161	米穀商
324	今高清三郎	下八町	1687	海産物商
261	伊和製糸場／堀内新太郎	柳原町	3379	
151	イロハ／川口信三	新町	219	藝妓置屋
308	岩本源三郎	榊町	1401	
244	上村乾繭場	松崎町	1428	
211	上村泰次郎	松崎町	425-6	質商
258	上山繁三郎	新町	175	薬種商
233	鵜飼伊蔵	新町	299	繭仲立業
275	梅田千代松	峡間町	10	金物商
214	梅田傳吉	上八町	33	
165	梅田兵之助	下横町	7	金物商
69	會津屋／梅田政男	下横町	340	金物

309	梅田ウメ	峡間町	34	
243	花月／江南むえ	峡間町	54	料理
307	大岡藤太郎	松崎町	1438-1	肥料商
255	大久保安次郎	新町	143	菓子商
34	大西卯吉	上横町	34	肥料商
39	大西正之介	下横町	354	酒造業
61	大西正之介	本町	66	酒造業
245	大木戸元介	新町	137	履物商
174	岡崎奈良蔵	鍛冶町	103	醤油醸造
172	岡島新八郎	榊町	1423	荒物商
58	岡村甚六	本町	336	荒物商
207	岡村精市郎	新町	161-9	精肉商
23	岡村常三郎	本町	11	書籍部
150	岡村常三郎	本町	27	呉服部
122	小川七兵衛	榊町	9	醤油醸造
216	小川七兵衛	新町	218-1	醤油醸造
320	小柳亥之介	新町	126	菓子商
18	奥自動車商會	下横町	349	
45	奥松五郎	下八町	1712-2	米穀商
325	奥本一郎	松崎町	1460	
312	笠置逸之介	新町	51	米穀商
236	笠原重三	新町	43777	
215	敷見林松	瀬古手町	415	青果商
31	カセキ呉服店／竹原熊次郎	新町	2	呉服
302	金井寅蔵	新町	192	肥料金物商
166	福喜多重之助	上横町	33	製麺海産物商
74	亀井自動車部／亀井久一郎	木屋町	380-1	自動車部
6	川上信雄	上八町	1653	貸座敷
7	川上信雄	上八町	1653	藝妓置屋
315	川上信雄	上八町	1653	
223	川地写真館	新町	218-1	
237	北田藤太郎	上八町	1645	
10	北村栄助	新町	105	酒造業
35	北村栄蔵	上八町	1485-1	酒造業
117	北多藤支店	**平尾**	1379-2	料理
11	北多藤本店	鍛冶町	111	旅館料理
110	北多藤別館	鍛冶町	111	旅館料理
152	喜多村勘兵衛	下横町	351	酒造業
113	田中とよ	本町	303	料理
103	木原庄蔵	下八町	1776	
164	木原台五郎	松崎町	1436-2	木炭肥料
107	木平歌子	新町	196	
239	國見芳松	柳原町	20	茶綿商
52	久保音松	鍛冶町	54	精米商
235	蔵持村役場	蔵持甲	390	
100	栗田佐三	新町	218-1	生糸商
170	栗田佐三	夏見	86	製糸業
200	米佳乙吉	本町	56	
16	黒田三之助	新町	145	硝子商
56	小西長七	上横町	14	薬種商
220	木ノ清／中屋清兵衛	松崎町	1468	木炭肥料
17	小林良之介	鍛冶町	17	医師
51	米山弥之介	瀬古手町	375	繭糸米穀
155	米山久太郎	上八町	1653	繭糸米穀
157	澤佐商店	夏見	3270	酒造業
138	澤佐八	上横町	37	内外肥料
14	参宮急行電鉄株式會社	**平尾**	3117	
273	名張営業所	平尾	2966	
269	名張駅	平尾	2966	
208	伊賀支線西名張駅	**北出**	1369-1	
225	参急運送株式會社名張代理店	下横町	355	
53	志賀繁夫	本町	119	薬品洋酒
257	渋谷庄太郎	上八町	1478	桶製造
64	順井安右エ門	榊町	1419	製糸業
328	順井安右エ門	榊町	1406	繭糸商
147	松月亭／笠原重三	新町	160	料理旅館
317	川島貞介	木屋町	1382	
335	菅生治郎	鍛冶町	75	米穀商
2	隅田一郎	上八町	49	貸座敷
129	隅田勝次郎	峡間町	43587	新聞販売
32	角田半蔵	下横町	370	酒造業
50	清風亭／森野奈良之介	鍛冶町	91	料理
230	關本萬次郎	榊町	1416	薬剤薬品問屋
224	セモリ呉服店／瀬森徳三	上八町	1490-1	呉服店
210	大正屋／山本源松	松崎町	1468-3	旅館料理
167	大為商店／亀山為助	本町	320	陶器業
226	株式會社タカキタ農具製作所	瀬古手町	378	
212	竹田芳蔵	黒田	39	蠶種製造
254	竹中音次郎	柳原町	3335	果実青物
43	田中逸之介	本町	41	乾物青物
47	田中彦左衛門	新町	200	
304	田中彦左衛門	鍛冶町	94	
126	田中精一郎	新町	191	料理
238	田中高之助	榊町	1404-1	薬種商
206	田中豊松	木屋町	1369-3	材木商
203	田中弘	本町	321-4	履物商
326	田中信太朗	上横町	191-1	米穀商
337	田中なつ	上八町	1645	結髪業
162	玉置宇太吉	本町	62	
104	檀藤／松野清太郎	新町	147	旅館料理
329	瀧川村役場	丈	6243-2	

108	千鳥	新町	152	藝妓置屋
301	津崎嘉十郎	豊後町	815-6	材木商
127	辻權平	榊町	1400	歯科医師
67	辻本林蔵	木屋町	1369-3	材木商
271	出口佐一	瀬古手町	434	
249	出口房之介	上八町	1494	乾物青物
21	寺新旅館／寺島新之祐	瀬古手町	433	
334	寺新旅館／寺島新之祐	瀬古手町	433	
156	寺田自転車部／寺田佐貴	平尾	2940	自転車部
137	てんぐや／山田卯十郎	瀬古手町	372	料理
218	富山常松	松崎町	1455	菓子商
153	中尾國産堂／中尾捨松	本町	303	小間物化粧品
227	中尾材木店	木屋町	815-6	
242	中島瀧二郎	瀬古手町	472	牛乳業
173	中島奈良松	新町	161	醤油醸造
30	中野保延	本町	317	有価證券売買
133	中村音松	本町	319	米穀商
15	中村權	本町	314	医師
55	中森松之助	榊町	31	米穀商
119	中森保太郎	上八町	34	時計自転車商
114	中森若松	黒田	22	
331	中谷長太郎	本町	53	歯科医師
48	ナガ印刷所	峡間町	82	
12	名賀運送株式會社	新町	166	
131	八丁出張所	下八町	776	
26	名賀郡団体事務所	峡間町	82	
37	名賀農学校	下八町	2067-2	
9	名張魚類株式會社	瀬古手町	375	
132	名張魚類株式會社	本町	329	
36	名張警察署	峡間町	82	
247	名張高等女学校	峡間町	15	
41	名張尋常高等小学校	峡間町	54-1	
41	**名張尋常高等小学校**	**峡間町**	**55-3**	
24	名張新聞舗／北谷正二郎	本町	58	
102	名張信用組合	北出	1366	
262	名張信用組合	本町	321	
263	名張信用組合	本町	32	
267	名張信用組合	下横町	353	
270	名張信用組合	南出	811	
306	名張信用組合	上八町	1664-1	
310	名張信用組合	上八町	166-3	
316	名張信用組合	本町	9	
318	名張信用組合	新町	86-2	
142	名張町長宅	鍛冶町	99	
29	名張町役場	峡間町	79	
136	**名張郵便局長宅**	**榊町**	**1418**	
123	夏秋正二郎	榊町	59	洋服商
305	夏秋林三郎	安部田	3025	蠶種製造
303	成田秀磨	木屋町	1386	会社員
336	内藤盛光	豊後町	440	鍼灸術者
19	西玉水／石原宗三郎	**平尾**	3226	旅館料理
332	西山良之介	下八町	2	金物商
246	ニシキ商會／橋本乙八	新町	182	小間物問屋
252	錦生村役場	安部田	2289	
171	沼田平吉	松崎町	1449	材木商
125	はいせ／萩原	新町	80	料理活版業
311	橋本始次郎	上八町	1647	印刷業
109	濱井くよ	木屋町	1386	
300	濱地佐太郎	長屋	457	蠶種製造
1	株式會社百五銀行名張支店	本町	47	
8	株式會社百五銀行名張支店	本町	47	
44	平岡彦蔵	本町	42	精肉商
141	平岡安蔵	松崎町	1468	精肉商
209	平澤鉄次郎	瀬古手町	430	歯科医師
144	ヒラヤ薬局／奥矢甚也	榊町	42	薬種商
231	廣岡平兵衛	新町	146	古物商
268	廣本鹿之介	新町	196	紙商
314	福井佐重郎	上横町	3341	紙商
73	福井達之助	松崎町	1460	綿糸石油度量衡器
22	福田楢二郎	上八町	1640-1	製茶乾繭業
62	福田政蔵	下横町	365	料理
323	福持善之極	安部田	3905	酒造業
66	福森本店／福森次郎	本町	44	呉服商
256	福本正吉	下八町	1773	米穀商
158	藤田鉄工所／藤田勘六	榊町	1398	
221	藤田信蔵	新町	53	飲食業
59	藤野繁治	本町	72	乾物青物
105	藤川屋／藤本高親	榊町	1398	金物商
234	藤森房吉	鍛冶町	85	海産物商
160	藤山勘吉	峡間町	57	土木請負
163	藤山義男	上八町	1488	
28	二葉／柏村りやう	北出	1349	藝妓置屋
40	古川留吉	上八町	46	
253	古山伝吉	本町	115	洋服商
65	古矢	本町	50	荒物商
232	ベニカ洋装店／森本布き恵	下横町	332	
265	細川一太郎	新町	136	会社員
63	保田菊之助	本町		醤油醸造
116	堀内敬吉	瀬古手町	116	雑貨業

33	前田円造	松崎町	1443-2	酒造業
274	前田申一	松崎町	1470	木炭商
159	前田文具店／前田平太郎	榊町	38	
146	前田平四郎	松崎町	1459	海産物商
241	増岡門治	新町	127	履物商
145	桝田敏明	新町	230	医師
251	松生亥之助	松崎町	124	醤油醸造
57	松田熊治郎　支店	松崎町	27	酒造業
68	松田熊治郎　本店	本町	61	酒造業
131	松田東治	本町	333	菓子商
248	松本喜一	下横町	40	紙商
143	松本巳之助	松崎町	20	呉服商
229	用品雑貨店／岩本寿美	榊町	1411	
13	国際運輸株式会社代理店	木屋町	821	
111	丸下長祐	下八町	1775	酒造業
72	株式会社三重県農工銀行名張支店	下横町	367	
27	株式会社三重合同電気会社上野支店名張技術員出張所	本町	1	
139	三重殖産無蓋株式会社	木屋町	821	
168	三重石鹸製造所／中尾喜代太	上八町	1495	
330	三重県蠶業取締所名張支所	峡間町	83	
169	箕曲村役場	夏見	195-1	
130	三原金治郎	新町	133	司法代書業
140	村井鄰雄商店	瀬古口	297	米穀商
228	村瀬芳太郎	榊町	59	海産物商
3	森岡りを	下横町	359	
322	森季一	結馬	609	蠶種製造
321	森本虎司	松崎町	1436	造酢業
46	森脇鶴松	瀬古手町	375-2	公債株式売買
38	門矢伊蔵	本町	316-4	海産物商
71	八百傳／岩森善太郎	松崎町	1443	乾物青物
201	矢の惣商店／藤野菊之助	新町	217	海産物商
259	山岸友三	松崎町	1468	書籍商
313	山岸平右ェ門	上八町	1485-2	旅館
4	山口キミ／山口樓	上八町	18	貸座敷
222	山口貞太郎	豊後町	439	乾繭業
5	山中荘太郎	本町	39	
120	山中荘太郎	本町	200	保険代理店
260	山中若松	上横町	27	洋服店
149	山村けい	新町	90	女髪結
112	山村彦三	本町	8	呉服商
115	山村彦太郎	本町	335	呉服商
75	山村光次郎	榊町	27	青物乾物
202	山村與三兵衛	本町	87	精米商
205	ヤマモト松寿堂／山本辰男	下横町	372-1	菓子商
148	山本精三	柳原町	3376	繭糸商
161	大和屋本店／藤井庄太郎	本町	55	菓子商
54	横山京太郎	下横町	348	海産物商
106	横山正四郎	新町	193	医師
264	吉川春吉	本町	316	洋品雑貨
327	吉住政男	木屋町	1385	理髪業
154	吉山徳松	榊町	1421	
250	吉山徳松	新町	138	乾物青物
135	若葉／福本さき	鍛冶町		芸子置屋

※ゴシック体は下記に該当する項目を示す。
電話番号「117」の町名「原尾」は「平尾」の誤植。
電話番号「14」の町名「前山」は字名のため「平尾」とした。
電話番号「208」の町名「北ノ前」は字名のため「北出」とした。
電話番号「41」の「名張尋常高等小学校」と「36」の「名張郵便局長宅」は重複。
電話番号「19」の町名「原尾」「平尾」の誤植。
電話番号「131」は「八丁出張所」と「松田東治」で使用されているが詳細不明。

263 件の加入者が、名張市旧町のどのエリアに分布しているかを一覧に示した（表 3）。その結果、本町の 41 件が最多で新町がそれに続いた。この二つの町で電話加入者数は全体の約 3 割を超えており、他の町と比較しても多くを占めていることが分かった。

表 3　昭和 6 年の名張市旧町における普通電話加入件数

本町	41 件
新町	39 件
榊町	25 件
上八町	23 件
松崎町	22 件
下横町	18 件
瀬古手町	14 件
峡間町	12 件
鍛冶町	11 件
木屋町	10 件
上横町	9 件
下八町	8 件
柳原町	4 件
豊後町	3 件
その他	23 件

両町の特徴について『名張市史』には「有名商店が本町に密集していることだ。これは城下町時代からの伝統で、本町は大手前に位し、町の中心であった。このメーン・ストリート的地位は明治以後もつづいた。これに続く新町も南の玄関口として殷賑をきわめた」[13]と記されており、戦前の名張を代表する商店街であったことが読み取れる。

4．明治から昭和初期にみられた旧町の商店

4．1　明治期の商工人名録

明治期における名張市の商店について『名張市史』には「明治の初年に名張町にどんな店があったのかを調べるのは、社会生活史の上できわめて興味がふかい。しかし残念なことに的確な資料がない」[14]と記している。このように史料が限定的であるなか、『名張市史』で参考とした明治 26 年の『三重県下商工人名録』に加え、明治 25（1892）年の『日本全国商工人名録』[15]（図 7）を用いて、名張市旧町に該当する商店を抽出し一覧（表 4）に示した。

図 7　明治 25 年の『日本全国商工人名録』

表 4　名張市旧町における明治 25 年と明治 26 年の商店

町名	氏名	M 25	M 26
本町	藤野五左衛門	○	
	竹原吉六		○
	山村彦三		○
	岡村甚三郎	○	○
	藤野榮助	○	○
	松田徳兵衛	○	○
	田中逸之助		○
	藤野平左衛門	○	
	辻森多吉		○
	藤野新蔵		○
	木村嘉十郎		○
	古山傳治（傳次）		○
	福喜多重兵衛		○
	木津善支舗		○
	奥田藤八		○
	藤野支店（矢の五）		○
	前川喜兵衛		○
	岡村常三郎		○
	今堀支店		○
	栗田定助		○
	大西正之助		○
	藤野平右衛門		○
	長田奈良次郎		○
	東瀬済		○
	山村與三兵衛		○
	竹田五左衛門		○
	福喜多重次郎		○
	古矢彌太郎		○
	新傳太郎		○
新町	山岡源之助	○	
	津崎嘉七	○	
	金井平蔵		○
	高田覺治		○
	鈴木藤三郎	○	
八町	梅田傳吉		○
	前田巳之吉	○	○
下横町	森岡平助		○
	堀内源助		○
	中村音吉	○	
	關元利兵衛		○
	梅田傳助	○	
	喜多村角太郎	○	○
	梅田傳二	○	○
	森本源次郎	○	
	小田ちさ	○	
	關元利祐		○
	角田半兵衛		○
	梅田千代松（会津屋）		○
	小田屋喜三郎		○
松崎町	前田平七	○	○
	前田平兵衛	○	○
	大森萬次郎	○	
	久保彌助		○
	清住佐吉		○
	森本彦太		○
	前田平四郎		○
	山田半三郎		○
	佐埜英三		○
榊町	池田仁七郎		○
	岡嶋新八郎	○	○
	山村由右衛門		○
	岩本源三郎		○
	藤川清平		○
	藤田勘兵衛		○
	木村菊松		○
	小川松太郎		○
上横町	短岡春吉	○	
	辰巳榮三郎	○	○
	小西長七		○
	大西卯吉	○	
鍛冶町	藤野五左衛門	○	○

その結果、調査が行われた明治 24（1891）年から明治 25 年にかけて、名張の旧町には 71 件の商店を数えることが

できた

4．2　大正から昭和初期の信用録と商工人名録

大正期における名張市旧町の商店についても、史料が限られているためか『名張市史』では詳述されてはいない。ここでは国立国会図書館に所蔵され、大正期に発行された信用録と人名録を用いて、名張市旧町における商店を調査した。なお、調査に用いた史料は一覧の通りである（表 5）。

表 5　大正から昭和初期の商店を調査した史料一覧

出版年	書籍名
T2	帝国商工信用録／7 版
	帝国商工信用録／改訂 9 版
T3	帝国商工信用録／11 版
	日本商工人名録
	日本全国商工人名録
T5	帝国商工信用録／履物商之巻
T10	商工信用録／45 版
	日本全国商工人名録
T11	商工信用録／46 版
	商工信用録／47 版
T12	商工信用録／48 版
	商工信用録／49 版
T13	大日本帝国商工信用録／38 版
	大日本帝国商工信用録／40 版
T14	商工信用録／51 版
	毛織業信用録／第 1 巻
T15	商工信用録／53 版
	帝国信用録／19 版
S3	日本商工信用録／醸造之部
S4	帝国信用録／22 版

それぞれの史料には、業種別に分類されており、そこには氏名と所在地をはじめ、納税額や創業年などが記されている。列記された業種から三重県名張市の旧町に該当するものを抽出し、前述した『三重県普通電話番号簿』と同じ商店を一覧へ示した（表 6）。

表 6　大正から昭和 4 年に掲載されていた商店

町名	名称	T2	T3	T5	T13	T14	T15	S3	S4
本町	赤井分店/赤井留吉								○
	田中逸之介		○						
	中野保延						○		○
	名張魚類株式會社	○	○		○				
	名張新聞舗/北谷正二郎								○
	福森本店/福森次郎		○						
	保田菊之助				○			○	
	松田熊治郎本店		○		○			○	
	門矢伊蔵				○				
	山村彦三	○	○		○				○
	山村彦太郎	○	○						
	大西正之介							○	
	岡村甚六	○	○						
	岡村常三郎								○
榊町	岩本源三郎					○			
	岡島新八郎								
	小川七兵衛	○	○						
	中森松之助	○	○		○				
	夏秋正二郎								○
下横町	猪田長太郎								○
	梅田兵之助								○
	喜多村勘兵衛				○			○	
	角田半蔵	○	○		○			○	
	森岡りを	○	○						
松崎町	大岡藤太郎	○	○		○				
	前田円造		○		○			○	
	森本虎司								○
上横町	大西卯吉	○	○						
	澤佐八							○	
上八町	梅田傳吉	○	○						
	古川留吉				○				
鍛冶町	岡崎奈良蔵		○		○		○	○	○
	北多藤本店	○	○						
峡間町	梅田千代松	○	○		○				○
	ナガ印刷所/成田秀磨				○				
下八町	奥松五郎	○	○		○				
瀬古手町	株式會社タカキタ農具製作所								○
柳原町	伊和製糸場/堀内新太郎	○	○						○
木屋町	田中豊松								○
新町	北村栄助	○	○		○			○	

その結果、大正 2 年から『三重県普通電話番号簿』が発行される昭和 6 年までのあいだで抽出できた名張市旧町の商店は 39 件あり、各町の内訳をグラフに示した（図 8）。

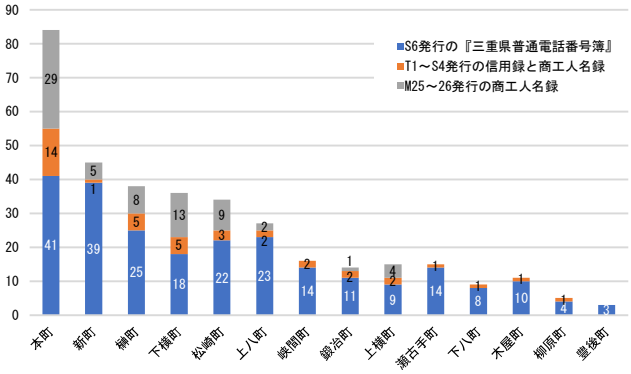

図 8　各町における掲載されていた商店の件数

前述した『三重県普通電話番号簿』では、本町（41 件）と新町（39 件）における商店の件数は近似であった。ところが、明治 25 年から昭和 4 年にかけて、本町が 43 件（29 件+14 件）であったのに対して新町はわずか 6 件（5 件+1 件）と大きな差が見られた。

これは、明治から昭和初期に用いた史料に掲載されていた商店は、納税額が高く優良な商いを行っていたものと言える。その一方で『三重県普通電話番号簿』に列記された商店は、商売を行う上で電話の導入が必要であり大きな売り上げがあった可能性は低いと推察される。すなわち、明治から昭和初期にかけて新町で商売を行っていた店舗は、昔から営業を続けていた大店ではなく、近代になってから名張で店を構えるようになったものと推察できる。その一方で本町にあった商店は、江戸時代から続いてきた大店である可能性が高く、名張において有名で売り上げも多かったものと考えられる。

5．まとめ

名張市の旧町には初瀬街道が敷かれ、宿場として古くから栄えてきたが、現在では人口減少によって空き家が増加している。これまで、旧町に残されている町家がどのような特徴を有しているか明確に示されているとは言い難いなか、明治から昭和初期にかけて発行された信用録と人名録をもちいて、その一部を明らかにすることができた。

新町と本町は通り隣り合う町どうしであるにも関わらず、商店の経営状態は異なる可能性が高いと言える。

今後は、現存する町家を調査し、本稿で示した結果を結びつけることで、名張市旧町全体における町家の特性を明らかにしていきたいと考えている。

謝辞

本稿作成にあたり、研究室に所属する本科 5 年生の川畑涼君、瀬川凛太朗君、永井仁君の協力を賜りました。ここに謝意を記します。

---

[1] 三重県は、県内を北勢、伊賀、中勢、南勢、東紀州の 5 つに区分している。

[2] 名張市に文化財に指定されている名張藤堂家邸跡は、かつて陣屋として使われていた場所である。

[3] 名張市ホームページの「町別人口統計表」による。

[4] 中貞夫『名張市史』名張市、1974。

[5] 松田豊幹『三重県下商工人名録』三重日報社、1893。

[6] 前掲注 4、p.246。

[7] 『三重県下普通電話番号簿』名古屋逓信局、1931。

[8] 名張市旧町における町名の変遷については『名張市史』（名張市、1974、pp.29 - 32）に詳しい。

[9] 旧名張町における鉄道の変遷については『名張市史』（名張市、1974、pp.320 - 323）に詳しい。

[10] 上田世志子「名張町地圖」岡村書店、1931。

[11] 三重県『三重県史通史編近現代 1』同発行、2015。

[12] 前掲注 11、p.486。

[13] 前掲注 4、p.246。

[14] 前掲注 4、p.244。

[15] 白﨑五郎七、白﨑敬之助『日本全国商工人名録』日本全国商工人名録発行所、1892。